

平成11年7月28日

第21回医学生・研修医の為の東洋医学セミナー

生薬特別講義

～生薬の生産地へ～

「生薬の生産地へ」と題して、主に中国の実際の生産地の状況・加工方法などを、下記の品目について紹介する（地名は末頁の地図を参考）。

(1) 柴 胡

静岡県三島の栽培柴胡、中国河北省豊寧県、湖北省鄖県の野生柴胡の自生地。

(2) 半 夏

甘肅省南部西和県の半夏の自生地と加工。

(3) 黄 芩

河北省北部豊寧県の野生黄芩、南部安国周辺の栽培黄芩。

(4) 人 参

吉林省撫松県、長白県の栽培地及び湯通しによる加工方法。

(5) 大 棗

河南省新鄭市のナツメの栽培地。

(6) 生 姜

広西壮族自治区（中国南部）の西部の西林県のショウガの栽培地と加工状況。

(7) 甘 草

日本に流通している薬用の甘草は中国の東北地区の東北甘草と西北部の西北甘草に分けられる。東北甘草では内蒙古東北部の奈曼旗、西北甘草では寧夏回族自治区の塩池周辺の、それぞれ野生甘草の自生地。

(8) 桂 皮

中国南部でも栽培されているが、今回はベトナム北部の YEN BAI 地区の桂皮の栽培地の状況。

(9) 麻 黄

中国北部の山西省、河北省から東北部の遼寧省、吉林省及びそれに隣接する内蒙古に自生している。内蒙古扎魯特旗の自生地及び通遼の加工場の状況を紹介し、若干の問題提起をする。

(10) 紅 花

山形県で栽培されているが、生薬としての紅花は中国産である。新疆ウイグル自治区の奇台県の栽培地の状況

(11) 大 黄

四川省雅安地区石棉県で掘り出された野生物の根と加工方法、また、青海省班瑪県の自生地
の状況と加工方法。

(12) 鬱金（郁金）

四川省成都近くの温江県のウコンの栽培地の状況。日本ではウコンは根茎を利用しているが、
中国では根茎の他、塊根も利用して薬にしている。中国では根茎を“姜黄”、塊根を“郁金”と
称し、部位により名称が異なり使い分けている。また、根茎は、日本では“郁金”、中国では“姜
黄”と呼び、同じ部位なのに日本と中国では生薬名が異なる。

以 上

